

なかじまさぶろうすけ

中島三郎助と横須賀

いつごろ？

江戸時代の終わりのころから
明治時代の初めのころ

横須賀でゆかりの深いところは？

浦賀 (浦賀奉行所跡・中島三郎助招魂碑・大衆婦本塚の碑・
浦賀コミュニティセンター分館 など)



中島三郎助
(写真提供：中島三郎助資料室)

事をしていました。

中島が奉行所に勤め始めたのは14歳の時でした。もちろん最初から責任のある仕事はさせてもらえません。見習いから始めるのです。先輩について奉行所のさまざまな仕事を覚えていきます。

江戸時代の終わりのころ、浦賀は相模国（現在の神奈川県）で一、二の大きな町でした。その浦賀に奉行所といて、現在の市役所、警察署、裁判所、税務署、税関、海上保安庁などの仕事をする役所がありました。

中島三郎助（1821年～1869年）はこの奉行所の与力といて、現在の役所の部長や課長のような責任ある仕事

はじめに

三浦一族と
横須賀三浦按針と
横須賀ペリーと
横須賀中島三郎助と
横須賀小栗十野介と
横須賀ヴェルニーと
横須賀

奉行所に勤めてから2年がたったころ、1隻のアメリカ船が浦賀沖^{おき}に来航しました。この時の外国船に対する決まりは、「外国船は大砲^{たいほう}を打って追い返せ」というものでした。観音崎^{かんのんざき}の台場^{だいば}（砲台^{ほうだい}）に勤めていた中島は、初めて大砲を外国船に向けて発射^{はっしや}しました。この事件は後に「モリソン号事件」として、江戸幕府の外国船対策や江戸湾の警備^{けいび}の在り方まで見直す大事件となりましたが、中島にとっては「刀や弓^や、槍^{やり}の時代でなく、大砲の時代が来た」ことを実感した事件でした。事件後、さっそく砲術家^{ほうじゆつか}へ入門し、大砲を打つ技術を磨^{みが}きました。

1853年7月、ペリー提督^{ていとく}が率いるアメリカの軍艦^{ぐんかん}4隻が浦賀沖に来航しました。

このうちの2隻は日本人が初めて見る蒸気船^{じようき}でした。この時の中島三郎助の仕事は、外国船の国や来航した目的を聞き、貿易をしようとか、友達になろうという目的なら、浦賀ではなく長崎^{ながさき}へ行きなさいと通達することでした。

奉行所の船で通訳の堀達之助^{つうやく ほりたつの すけ}とともに蒸気船に近づきましたが、なかなか船に乗せてくれません。今までに数回来ている外国船はとても友好的で、誰^{だれ}にでも船を開放して、友達になろうとしていましたが、ペリーは今にも戦争を始めそうな感じでした。

ここで堀が英語で「私はオランダ語が話せる」と蒸気船の乗組員にむかって言うと、中島と堀だけが蒸気船に乗ることを許されました。

蒸気船に乗って話し合いが始まると、ペリーの目的が「アメリカ大



浦賀奉行所の模型^{もけい}
(浦賀コミュニティセンター分館)

統領からの親書(手紙)を将軍に渡し、その答えを聞くことだ」ということがわかりました。この時、堀が中島を浦賀奉行所のナンバー2の副奉行であると紹介しました。

しかし、ペリー側から見た中島の評価は、艦内を自由に歩き回り、さまざまな質問をし、大砲の大きさまで測る、落ち着きがなくスパイみたいな要注意人物というものでした。

これは、中島の、大砲が最新式の爆発する砲弾を発射できるものなのか、蒸気船の構造はどうなっているのか、など新しいことをどんどん吸収しようとする行動から出たことでした。

ペリーが久里浜へ上陸して、親書を渡す使命を果たして帰ると、

中島は江戸幕府に対して意見書を出し、軍艦の必要性を説きました。幕府は中島らの意見を聞き、浦賀で西洋式の軍艦を建造することになりました。建造の責任者に中島が選ばれ、わずか9カ月というスピードで、日本で最初の軍艦「鳳凰丸」が完成しました。



鳳凰丸の模型
(浦賀コミュニティセンター分館)

こうした中島の活躍は全国的にも知られるようになり、幕末の志士の多くが学んだ松下村塾の吉田松陰が、桂小五郎(後の木戸孝允)を中島のもとへ弟子入りさせるほどになっていました。

幕府は本格的な海軍をつくるため、長崎に海軍伝習所(海軍の技術を学ぶ学校)を開き、中島も第一期生に選ばれて、海軍士官

はじめに

三浦一族と
横須賀三浦按針と
横須賀ペリーと
横須賀中島三郎助と
横須賀小栗上野介と
横須賀ヴェルニーと
横須賀

の勉強と軍艦建造のことをよく学ぶようと命じられました。

明治維新を迎えるころの中島は、後輩の榎本武揚に誘われて、函館(北海道)に新しい国をつくろうとしましたが、明治新政府軍との戦いに敗れ、函館の地で2人の子どもと共に戦死してしまいました。

函館市中島町には、中島親子が生涯を終えたことを示す石碑が今もあり、毎年5月には石碑の前で碑前祭が行われています。

1891(明治24)年5月、西浦賀の愛宕山に中島三郎助の招魂碑が建てられました。その時に集まったメンバーにより、中島が残した造船技術を浦賀の地で引き継ぐために、浦賀ドックという造船所が建設され、2003(平成15)年まで船が造られていました。

浦賀地域の郷土資料館である浦賀コミュニティセンター分館の展示室には、中島三郎助に関する資料や、浦賀奉行所の模型、鳳凰丸などの船の模型が展示されています。



中島三郎助招魂碑

文化人としての中島三郎助

中島三郎助には文化人としての顔もありました。漢詩、和歌、俳句の道にも通じていて、特に俳句には熱心で、多くの句を残しています。また、浦賀警察署の脇には市民文化資産に指定されている「大衆帰本塚の碑」があり、碑文には、中島三郎助の文章と筆跡がそのまま刻まれています。



大衆帰本塚の碑

おぐりこうずけのすけ

小栗上野介と横須賀

いつごろ？

えど
江戸時代の終わりのころから
めいじ
明治時代の初めのころ

横須賀でゆかりの深いところは？

しおいり
汐入 【旧横須賀製鉄所(現在のアメリカ海軍横須賀基地)・
ヴェルニー公園】



小栗上野介*

小栗上野介^{ただまさ}忠順(1827年～1868年)は、船を造ったり、^{しゅうり}修理をしったりする施設である横須賀製鉄所を建設するために力を尽くした人です。

もともと小栗は、^{ばくふ}幕府の代表団の一人として、貿易についてアメリカと^{こうしょう}交渉をした^{ゆうしゅう}優秀な人で、日本に帰って来てからは、外国との交渉をする外国奉行という幕府の役人となっ

ていました。

外国奉行として^{かつやく}活躍していたある時、ロシアの^{ぐんかん}軍艦が、北九州の^{きたきゅうしゅう}対馬(長崎県)を^{せんきょ}占拠するという事件(対馬事件)が起こりました。この時、イギリスの力を借りなければロシアの軍艦を退去させることができなかったことから、小栗は幕府が手だてを持っていないことや、外交の^{むずか}難しさを知り、この事件の後、外国奉行を^や辞めてしま

はじめに

三浦一族と
横須賀

三浦按針と
横須賀

ペリーと
横須賀

中島三郎助と
横須賀

小栗上野介と
横須賀

ヴェルニーと
横須賀

いました。

その後、小栗は勘定奉行^{かんじょう}という幕府のお金を管理する役人となりました。そして、ペリー来航以来、幕府は軍艦を外国から買っていましたが、自分たちの力で軍艦を造ることが必要だと考えた小栗は、横須賀製鉄所の建設を決意します。



ワシントン海軍造船所における遣米使節団一行*
前列中心人物が小栗

多くの人の反対もありましたが、横須賀製鉄所が日本に必要なものであると確信していた小栗は、横須賀製鉄所の建設に踏み切りました。しかし、日本の力だけでは建設することはできず、外国の力を借りることになりましたが、イギリスやアメリカ、ロシアには事情があって、頼むことができませんでした。

そこで、フランスに手助けを頼むことになり、小栗は友人の栗本鋤^{くりもとじよ}雲^{うん}とともに、フランス駐日公使のロッシュと交渉します。この時ロッシュはフランス政府から、東アジアへの進出をさらに進めるように命令されていたので、そのチャンスとばかりに、この小栗の頼みをこころ



明治初期の横須賀製鉄所*

よく引き受けました。そして、その時中国^{ちゆうごく}にいたフランス人技師のヴェルニー（ヴェルニーについては25ページから28ページで紹介^{しょうかい}しています。）が招かれ、日本にやって来ることになりました。このよう

な幸運もあって、小栗の決意は実を結び、横須賀に製鉄所が建設されることになったのです。

小栗が建設に力を尽くした横須賀製鉄所は、1865年に工事が始まりました。2015(平成27)年には、それから150周年を迎えました。

横須賀製鉄所は、後に何回か名前を変えますが、日本が近代国家として発展した歴史に大きな役割を果たしました。その陰には、小栗の先を見通す力があつたことを忘れてはいけません。そして、横須賀製鉄所の「1号ドック」は、今も現役で使われているのです。

このような小栗の業績を称え、横須賀市では毎年国際式典を開催しています。



現在も使われている横須賀製鉄所の「1号ドック」
(米海軍横須賀基地内)

『浦賀ドック』



浦賀ドックは1897(明治30)年に鳳凰丸、咸臨丸や中島三郎助のゆかりのある浦賀のまちにできた造船所です。2003(平成15)年に閉鎖するまでに1000隻以上の船の製造や修理をしました。

中にあるレンガ造りのドライドックは大変貴重であり、日本では浦賀にしか現存していません。現在、一般見学はできませんが、「咸臨丸フェスティバル」などの際に、レンガドックが公開されています。

はじめに

三浦一族と
横須賀三浦按針と
横須賀ペリーと
横須賀中島三郎助と
横須賀小栗上野介と
横須賀ヴェルニーと
横須賀

ヴェルニーと横須賀

いつごろ？

江戸時代の終わりのころから
明治時代の初めのころ

どこの国の人？

フランス

横須賀でゆかりの深いところは？

- 📍 **汐入** しおいり 【旧横須賀製鉄所（現在のアメリカ海軍横須賀基地）・ヴェルニー公園・ヴェルニー記念館】
- 📍 **浦賀** うらが かんのんざき（観音崎灯台）



ヴェルニー
(写真提供：伊藤正孝さん)

フランソワ・レオンス・ヴェルニー（1837年～1908年）は、フランス海軍で働いていた造船の技術者で、横須賀製鉄所の建設を現場で指導した人です。日本に来る直前まで、中国で軍艦を造る仕事をしていました。中国での仕事を終えてフランスへ帰ろうとしていたところ、横須賀製鉄所の建設を指導するように依頼され、1865年に日本にやって来た

のです。

まずヴェルニーは、建設予定地の横須賀港を測量し、その後、一度

準備のためにフランスに帰りました。協力してくれるフランス人技師や必要な工具などの準備を整えたヴェルニーは、翌年^{よくねん}に再び日本へやって来て、本格的に横須賀製鉄所の建設に取りかかりました。

横須賀製鉄所の建設^{あわ}に併せて、働く人の規則や、フランス人のための生活環境^{かんきょう}も整えられました。規則には、働く時間を西洋の時間で10時間とすることや、フランス人は日曜日を原則として休みとすることなどが決められていました。今では当たり前になっていることが、この時の規則には見られます。

フランス人の生活環境を整えるため、住居や礼拝堂^{れいはいどう}などが造られました。特に礼拝堂は、熱心なキリスト教徒だったヴェルニーが、気に入っていた建物であったといわれています。また、事故でけがをした人や病気になった人を治療^{ちりょう}するために、フランスからサヴァチェという医師も呼ばれました。サヴァチェは、ナウマン象^{ほね}の骨を見つけた人としても知られています。

横須賀製鉄所の中には、船を造るための工場のほかに、製鉄所内で使われるフランス語や本格的な技術を、日本人へ教えるための学校も建てられました。この学校で学んだ人の中には、後の日本を支え、多くの方面^{かつやく}で活躍した人もいました。



横須賀製鉄所内の礼拝堂

はじめに

三浦一族と
横須賀

三浦按針と
横須賀

ペリーと
横須賀

中島三郎助と
横須賀

小栗上野介と
横須賀

ヴェルニーと
横須賀



初代観音埼灯台
(明治初期)

ヴェルニーの指導で建設が進められた横須賀製鉄所は、1871(明治4)年に開業しました。ヴェルニーはさらに、日本初の洋式灯台である観音埼灯台や富岡製糸場(群馬県)の建設などにもかかりました。ヴェルニーの残した横須賀製鉄所は、日本の産業の進歩に大きく貢献したといえます。

このほかにもヴェルニーの残したものがああります。例えば長さの単位である「メートル」は、横須賀製鉄所建設の時に日本で初めて使われた単位です。このように、今でも私たちが普段目に見ているものの中にも、ヴェルニーが残したものがああり、私たちの身近な生活にもヴェルニーは貢献したといえるのです。

1915(大正4)年に横須賀海軍工廠で、創立50周年の祝典が盛大に行われました。この横須賀海軍工廠というのは、小栗上野介やヴェルニーが建設に努力した横須賀製鉄所のことです。その後、明治政府に引き渡され横須賀造船所となり、さらに何回か改名をして、1903(明治36)年に横須賀海軍工廠となったのです。

大正時代になり、かつてヴェルニーから指導を受けた人たちから、ヴェルニーの胸像を造ろうという気運が盛り上がりました。胸像を造るために募金をしていたところ、皇室からも御下賜金(寄付金)が寄せられました。こうして、1922(大正11)年、ヴェルニーと小栗の胸像が緑が丘の諏訪公園に設置されました。

しかし、この胸像は、太平洋戦争で使う武器を造るための材料として使われてしまいます。1952(昭和27)年に再び造り直されて、現在のヴェルニー公園に設置されました。同じ年にヴェルニーと小栗の業績を称える記念式典も行われ、これは今もヴェルニー・小栗祭式典として続けられています。



ヴェルニー公園にある
ヴェルニー・小栗の胸像

ヴェルニーの指導により、1865年に工事が始められた横須賀製鉄所は、2015(平成27)年に創設150周年を迎えました。このことをきっかけとして、横須賀製鉄所から始まった150年間の横須賀の歴史をみんなで改めて振り返り、横須賀の成り立ちと発展について、未来の人達へと語り継がれていくことを願っています。

ヴェルニー公園

横須賀港に面していることから、かつては臨海公園という名前でしたが、ヴェルニーにちなみ、フランス庭園の様式を取り入れて再整備され、2002(平成14)年にヴェルニー公園として完成しました。

園内には、横須賀製鉄所で使っていた3トンと0.5トンのスチームハンマーを展示し、体験学習の場として利用されている「ヴェルニー記念館」をはじめ、バラの花壇や噴水など、見所がいっぱいです。海沿いのボードウォークからは、かつての横須賀製鉄所(現在のアメリカ海軍横須賀基地)を眺めることができます。



ヴェルニー記念館

はじめに

三浦一族と
横須賀三浦按針と
横須賀ペリーと
横須賀中島三郎助と
横須賀小栗ト野介と
横須賀ヴェルニーと
横須賀



表紙・挿絵

にいくら かな こ

新倉 佳奈子【日本画家】

1981年 横須賀市秋谷出身
2007年 女子美術大学大学院
修士課程
美術専攻美術研究科
日本画研究領域 修了
2008年 神奈川県美術展 入選

2013年 三浦商工会議所の マスコットキャラクター「三浦ツナ之介」
の原案を制作
2021年 第8回トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展 入選
創画会会友 個展やグループ展等多数。

子どもたちへのメッセージ

横須賀にゆかりのある人物をヒーローに見立て、表紙のデザインを描きました。

彼らは横須賀の歴史や文化を象徴し、力強く立ち上がっています。背景には横須賀の美しい海と輝く太陽が広がり、彼らの姿は勇敢さと誇りを感じさせます。

桜は日本を象徴する花であり、横須賀市の花が大島桜であることから、横須賀から彩り溢れる未来が広がっていくことを願い全体を覆うように桜の花を配しました。

読者の皆さまには、このヒーローたちの姿から横須賀への愛と絆を感じていただければ嬉しいです。



執筆

やまもと しょういち

山本 詔一 【浦賀在住の
郷土史家】

江戸時代から 200 年続く老舗書店
を経営の傍ら、長年の郷土史研究の経
験を活かし小学校への出前授業や講演
会を行い、地元浦賀や横須賀のまちの
誇りである地域史の啓発活動に尽力し

ている。現在、会員約 300 名の「横須賀開国史研究会」会長としても
活躍し、連載企画を多数執筆。

横須賀市文化行政専門委員、横須賀市文化振興審議会委員

子どもたちへのメッセージ

歴史は同じ時代に生きた大勢の人によってつくられるもの。その中で
名前が残る人はみんなと同じではなく、どこか優れたものを持っていた
人。横須賀の歴史に名を残した人々は横須賀という小さなエリアだけ
なく、日本の歴史に影響を与えた人たちでした。

それは横須賀というエリアがもつ地域の力も大きく影響していたと思
います。

みなさんもこの冊子に登場した人たちと同じエリアにいることをもっ
と誇らしく思いましょう。

この冊子で紹介している主な場所



原始・古代

三浦一族

三浦按針

ペリー

中島三郎助

小栗上野介

ヴェルニー

ヴェルニー記念館

ヴェルニー公園・ティボディエ邸

アメリカ海軍横須賀基地

浄土寺

三浦安針墓

曹源寺

衣笠城跡

満昌寺

清雲寺

満願寺

観音崎灯台

浦賀コミュニティ
センター分館

大衆焔本塚

中島三郎助招魂碑

浦賀奉行所跡

ペリー上陸記念碑
ペリー記念館

この冊子で使用している地図は、横須賀市長の承認を得て、同市発行の縮尺10,000分の1の都市計画基本図を使用して調製したものです。

執筆：山本詔一 表紙・挿絵：新倉佳奈子 監修：平尾信子、真鍋淳哉
 発行：横須賀市
 編集：横須賀市文化スポーツ観光部文化振興課
 〒238-8550 横須賀市小川町11番地
 電話 046(822)8116 E-mail cup-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp
 冊子の中で*印の付いている写真等は、横須賀市自然・人文博物館所蔵のものです。